

2 侵入犯罪

平成15年の主な侵入犯罪の各罪種・手口（注）の認知件数については、前年に比べ、侵入盗が減少し、侵入強盗、住居侵入は増加している。検挙件数、検挙人員はいずれの罪種・手口においても、前年に比べ増加している。

また、来日外国人による侵入犯罪の検挙件数及び検挙人員は増加傾向にあり、特に侵入盗は急増しており、前年に比べ、検挙件数が1,728件（25.6%）増加している。

注：「侵入犯罪」は、侵入強盗、侵入盗及び住居侵入とした。

(1) 侵入強盗

平成10年から急増している侵入強盗の認知件数は、平成15年は2,865件で、前年に比べ429件（17.6%）増加している。

検挙件数、検挙人員も増加しており、平成15年の検挙件数は1,402件、検挙人員は1,310人で、前年に比べ、検挙件数が88件（6.7%）、検挙人員が176人（15.5%）それぞれ増加している（図表2 - 2 - (1) - 1）。

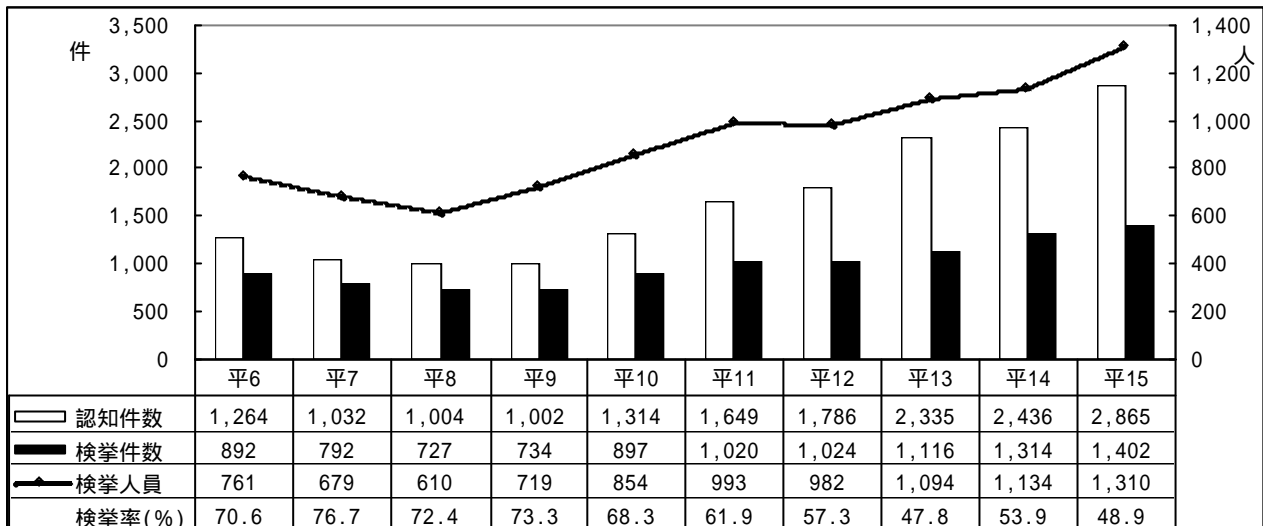
平成15年に認知した侵入強盗について見ると、発生場所は住宅が31.1%、スーパーマーケットが20.7%を占めており、10年間の推移では、住宅を対象とした事件もそれ以外も、ともに増加傾向にある（図表2 - 2 - (1) - 2、3）。発生時間帯は午前2時から午前4時までが最も多い（図表2 - 2 - (1) - 4）。

また、侵入強盗のうち凶器を使用したもの（警察の事件認知時に凶器使用と判断したもの）は1,684件（全体の58.8%）で、その内訳は、銃砲類（けん銃様のものを含む。）が97件、刀剣・刃物類が1,587件の合計となっている（図表2 - 2 - (1) - 5）。

検挙事件について見ると、成人、少年ともに単独犯が多い（図表2 - 2 - (1) - 6）。

なお、金融機関・郵便局対象強盗、コンビニエンスストア等深夜スーパーマーケット対象強盗については、41、42ページ参照。

図表 2 - 2 - (1) - 1 侵入強盗の認知・検挙状況の推移

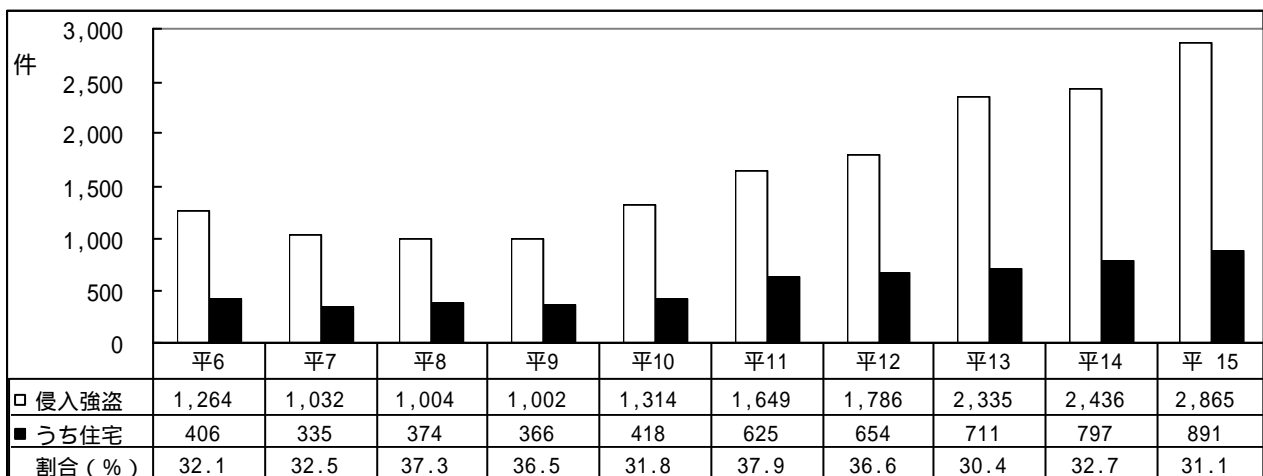


図表 2 - 2 - (1) - 2 侵入強盗の発生場所別認知件数

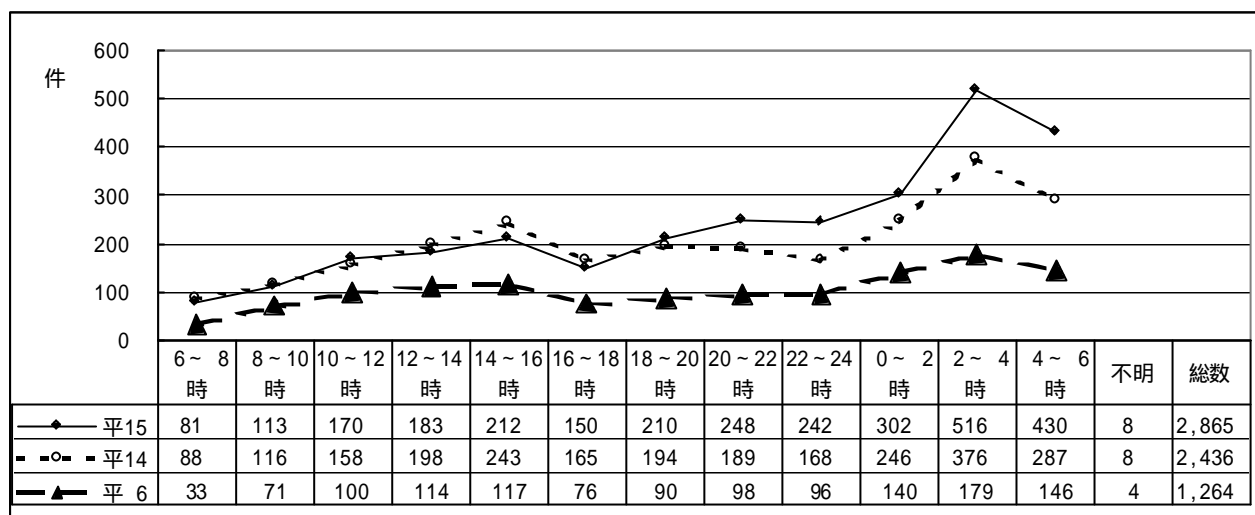
	平15		平14		増減	
	認知件数	割合(%)	認知件数	割合(%)	件数	率(%)
総数	2,865	100.0	2,436	100.0	429	17.6
住宅	891	31.1	797	32.7	94	11.8
一戸建住宅	403	14.1	384	15.8	19	4.9
マンション等	488	17.0	413	17.0	75	18.2
商店	1,294	45.2	926	38.0	368	39.7
うちスーパーマーケット	593	20.7	418	17.2	175	41.9
その他	680	23.7	713	29.3	-33	-4.6

注：「商店」の詳細については、巻末の資料を参照。

図表 2 - 2 - (1) - 3 住宅を対象とする侵入強盗の認知件数の推移



図表 2 - 2 - (1) - 4 侵入強盗の発生時間帯別認知件数の状況



図表 2 - 2 - (1) - 5 強盗事件の認知時の使用凶器別一覧（平成15年）

強盗手口 犯罪供用物	強盗		侵入強盗		非侵入強盗		うち路上強盗	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比
総数	7,664	100.0	2,865	100.0	4,799	100.0	2,955	100.0
銃砲類	126	1.6	97	3.4	29	0.6	7	0.2
けん銃	11	0.1	11	0.4	0	0.0	0	0.0
けん銃様のもの	88	1.1	67	2.3	21	0.4	4	0.1
その他銃砲	4	0.1	3	0.1	1	0.0	0	0.0
その他銃砲様のもの	23	0.3	16	0.6	7	0.1	3	0.1
刀剣・刃物類	2,373	31.0	1,587	55.4	786	16.4	355	12.0
日本刀	8	0.1	7	0.2	1	0.0	1	0.0
その他刀剣類	41	0.5	23	0.8	18	0.4	9	0.3
包丁類	1,085	14.2	865	30.2	220	4.6	58	2.0
その他刃物類	1,239	16.2	692	24.2	547	11.4	287	9.7
不明	131	1.7	63	2.2	68	1.4	46	1.6
該当なし	5,034	65.7	1,118	39.0	3,916	81.6	2,547	86.2

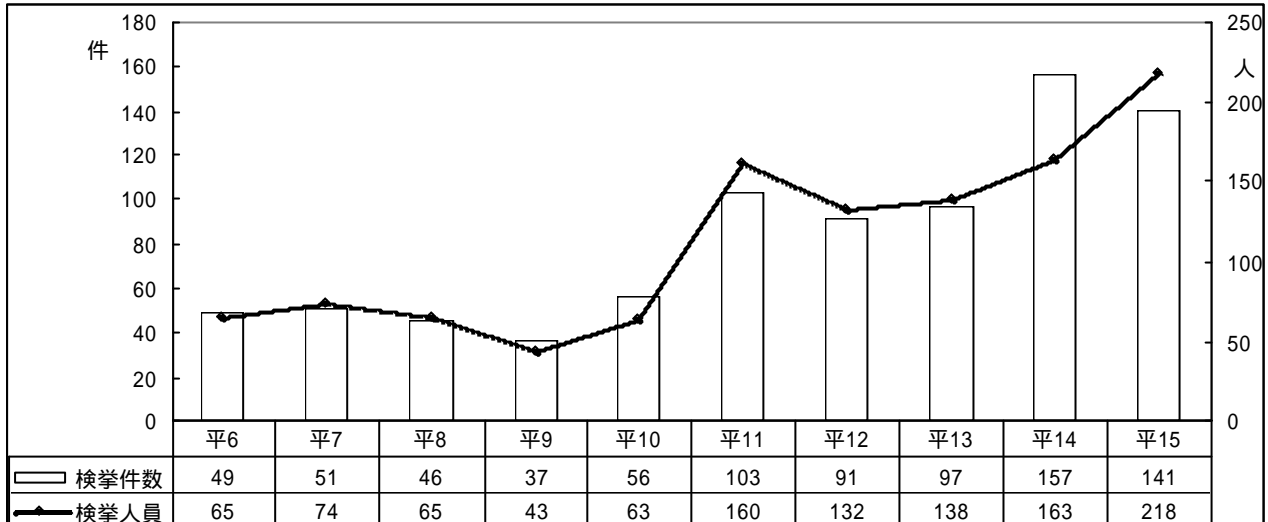
図表 2 - 2 - (1) - 6 侵入強盗の共犯形態別検挙件数（平成15年）

	総数	単独犯	共犯	共犯		
				2人組	3人組	4人組以上
総数	1,392	1,104	288	122	58	108
成人事件	1,296	1,050	246	108	46	92
少年事件	67	54	13	6	4	3
成人・少年共犯	29		29	8	8	13

注：解決事件を除く。

来日外国人による侵入強盗の検挙件数、検挙人員は、平成11年を境に大きく増加している。平成15年の検挙件数は141件で、前年に比べ16件（10.2%）減少している。検挙人員は218人で、前年に比べ55人（33.7%）増加している（図表2-2-(1)-7）。

図表2-2-(1)-7 来日外国人の侵入強盗の検挙状況の推移



侵入強盗、侵入盗に対する主な施策

《施策1》マンション・アパート等の防犯対策の推進

マンション・アパート等の所有者、管理者等に対し、侵入に困難な錠への取替え等を働き掛け、犯罪防止に配慮した住宅の普及を促進する。

《施策2》特殊開錠用具の所持の禁止等に関する法律等違反に対する取締りの強化

軽犯罪法、特殊開錠用具の所持の禁止等に関する法律違反等、侵入犯罪の手段となり、又はこれに発展するおそれのある行為に対する取締りを強化する。

《施策3》コンビニエンスストアを対象とする防犯対策の推進

新たに策定した「コンビニエンスストア・スーパーマーケットの防犯基準」に基づき、コンビニエンスストア等の従業員に対する指導の強化、現金管理の徹底等、防犯基準に基づいた指導を徹底する。

《施策4》検挙のための特別な捜査体制の編成

侵入盗の捜査に専従する特別な捜査体制を編成し、的割り捜査や手口捜査を継続的に推進する。

《施策5》初動捜査体制の強化

事案発生時における発生地周辺の検索活動等を迅速かつ濃密に実施するため、機動捜査隊等の本部執行隊や周辺警察署の警察官を一時的に大量投入する。

《施策6》共（合）同捜査の積極活用

広域にわたる侵入犯罪に対し、発生後早い段階から積極的に共（合）同捜査を実施する。

(2) 侵入盗

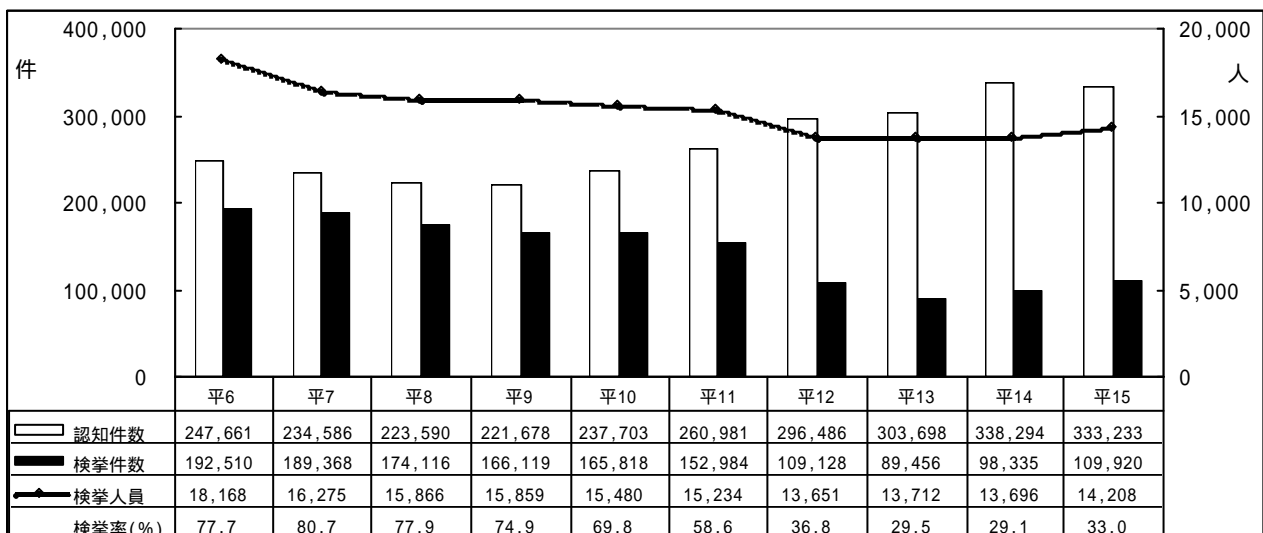
平成10年以降増加している侵入盗の認知件数は、平成15年は33万3,233件で、前年に比べ5,061件（1.5%）減少している。特に、事務所荒しの認知件数は、前年に比べ5,725件（11.6%）減少している。一方、住宅対象の侵入盗（空き巣ねらい、忍込み、居空きの3つの手口のものの）の認知件数は19万473件で、前年に比べ1,137件（0.6%）増加している。

平成13年まで減少傾向にあった検挙件数は、平成14年には増加に転じ、平成15年は10万9,920件で、前年に比べ1万1,585件（11.8%）増加している。検挙人員は1万4,208人で、前年に比べ512人（3.7%）増加している（図表2-2-(2)-1）。

平成15年に認知した侵入盗の認知件数について見ると、発生場所は住宅が57.7%、会社・事務所が15.4%を占めている（図表2-2-(2)-2）。発生時間帯は午前2時から午前4時までが最も多いが、これを住宅対象に限ると、午後2時から午後4時までが最も多い（図表2-2-(2)-3、4）。

検挙事件について見ると、成人では単独犯が圧倒的に多いが、少年では単独犯と共犯がほぼ同数である（図表2-2-(2)-5）。

図表2-2-(2)-1 侵入盗の認知・検挙状況の推移



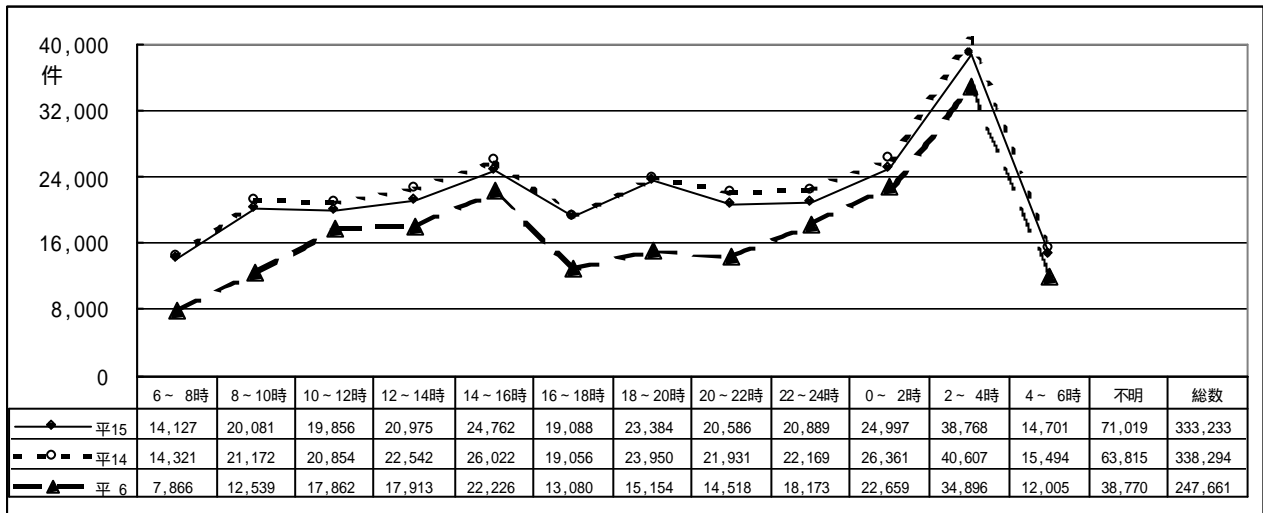
図表 2 - 2 - (2) - 2 侵入盗の発生場所別認知件数

	平15		平14		増減	
	認知件数	割合(%)	認知件数	割合(%)	件数	率(%)
総数	333,233	100.0	338,294	100.0	-5,061	-1.5
住宅	192,383	57.7	191,200	56.5	1,183	0.6
一戸建住宅	111,998	33.6	109,821	32.5	2,177	2.0
マンション等	80,385	24.1	81,379	24.1	-994	-1.2
会社・事務所	51,401	15.4	57,957	17.1	-6,556	-11.3
商店	33,105	9.9	33,330	9.9	-225	-0.7
生活環境営業	26,000	7.8	26,361	7.8	-361	-1.4
その他	30,344	9.1	29,446	8.7	898	3.0

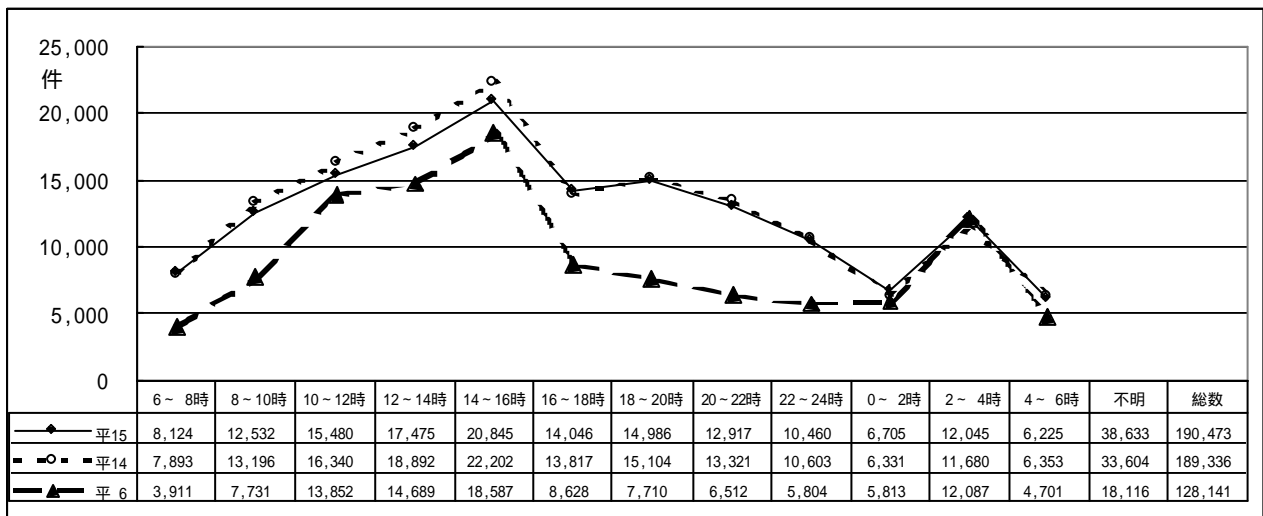
注1：「商店」、「生活環境営業」の詳細については、巻末の資料を参照。

注2：この図表では、発生場所が住宅である侵入盗の中には、倉庫荒し等が含まれるため、前述の住宅対象の侵入盗（空き巣ねらい、忍込み、居空きの3手口）の認知件数とは一致しない。

図表 2 - 2 - (2) - 3 侵入盗の発生時間帯別認知件数の状況



図表 2 - 2 - (2) - 4 住宅対象の侵入盗（注）の発生時間帯別認知件数の状況



注：住宅対象の侵入盗は、空き巣ねらい、忍込み及び居空きとした。

図表 2 - 2 - (2) - 5 侵入盗の共犯形態別検挙件数（平成15年）

	総数	単独犯	共犯	共犯		
				2人組	3人組	4人組以上
総数	109,112	82,844	26,268	12,807	6,919	6,542
成人事件	100,148	79,489	20,659	9,889	5,333	5,437
少年事件	6,483	3,355	3,128	1,761	842	525
成人・少年共犯	2,481		2,481	1,157	744	580

注：解決事件を除く。

平成15年に発生が目立ったのは、ドリルを使用したサムターン回しによる侵入盗（ドリル等で出入口ドアに穴を開けた上、サムターン回しで開錠する手口）であり、平成15年の認知件数は4,366件で、前年に比べ3,526件（419.8%）増加している（図表 2 - 2 - (2) - 6）。また、携帯用バーナー、ライター等の燃焼用具を使用し、ガラスを焼き切って侵入する手口も目立っており、平成15年の認知件数は5,585件で、前年に比べ4,096件（275.1%）増加している。

一方、昨年まで多く発生していたピッキング用具を使用した侵入盗の平成15年の認知件数は9,351件で、前年に比べ9,770件（51.1%）減少している（図表 2 - 2 - (2) - 7）。

ドリルを使用したサムターン回しによる侵入盗等の検挙事例を見ると、ピッキング用具とサムターン回し用具の両方を所持していた例が多く、中にはピッキング用具と燃焼用具を所持していたものもあり、侵入対象とする家屋の錠の種類や構造に応じて手口を使い分けている状況がうかがえる。

図表 2 - 2 - (2) - 6 ドリルを使用したサムターン回しによる侵入盗の認知・検挙状況の推移（注）

区分 \ 年次	平14	平15
認知件数(件)	840	4,366
検挙件数(件)	-	182
検挙人員(人)	-	68
検挙率(%)	-	4.2

注：全国調査は、平成14年から実施しているため、平成13年以前の数値はない。検挙件数は、平成15年1月から調査を開始した。

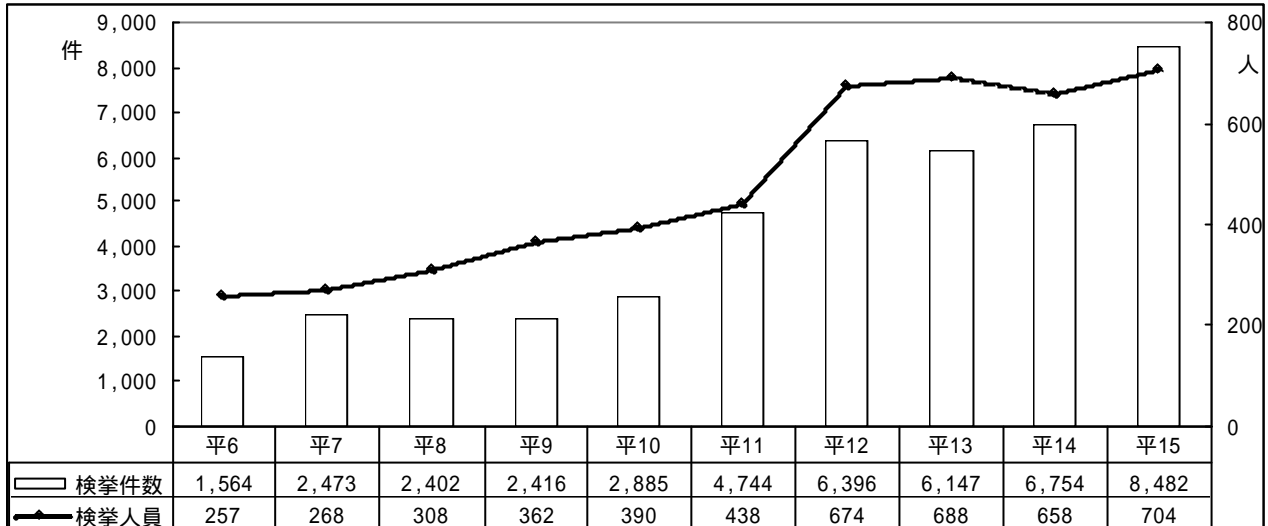
図表 2 - 2 - (2) - 7 ピッキング用具を使用した侵入盗の認知・検挙状況の推移（注）

区分 \ 年次	平12	平13	平14	平15
認知件数(件)	29,211	19,568	19,121	9,351
検挙件数(件)	-	-	4,736	3,299
検挙人員(人)	524	380	423	244
検挙率(%)	-	-	24.8	35.3

注：全国調査は、平成12年から実施しているため、平成11年以前の数値はない。また、検挙件数は、平成14年1月から調査を開始した。

平成11年以降急増している来日外国人による侵入盗の平成15年の検挙件数は8,482件、検挙人員は704人で、前年に比べ、検挙件数は1,728件（25.6%）、検挙人員は46人（7.0%）それぞれ増加している（図表2-2-(2)-8）。

図表2-2-(2)-8 来日外国人の侵入盗の検挙状況の推移



侵入盗に対する主な施策 ~ 27ページ参照

(3) 住居侵入

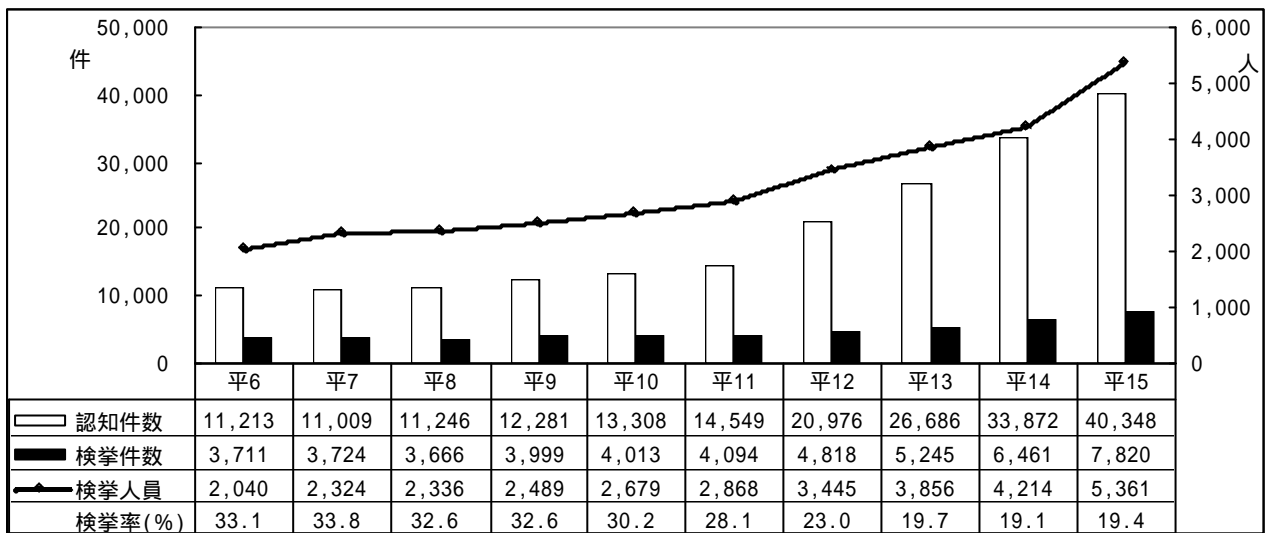
平成12年以降急増している住居侵入の平成15年の認知件数は4万348件で、前年に比べ6,476件（19.1%）増加している。

ここ10年、検挙件数、検挙人員共に増加傾向にあり、平成15年の検挙件数は7,820件、検挙人員は5,361人で、前年に比べ、検挙件数が1,359件（21.0%）、検挙人員が1,147人（27.2%）それぞれ増加している（図表2-2-(3)-1）。

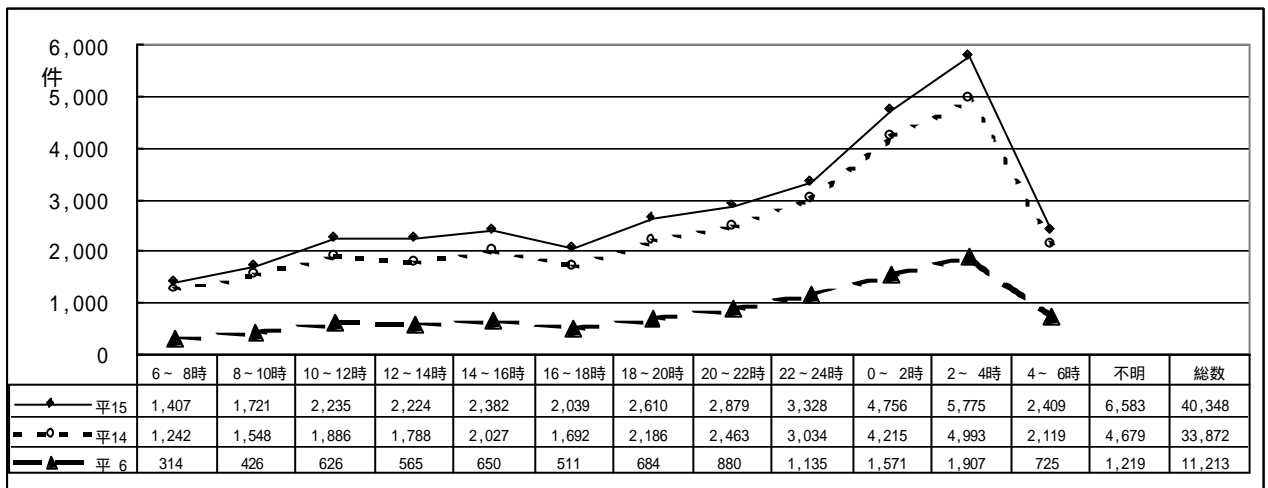
平成15年に認知した住居侵入について見ると、発生時間帯は午前2時から午前4時が最も多い（図表2-2-(3)-2）。

検挙事件について見ると、成人では単独犯が多いが、少年では共犯が多い（図表2-2-(3)-3）。

図表2-2-(3)-1 住居侵入の認知・検挙状況の推移



図表 2 - 2 - (3) - 2 住居侵入の発生時間帯別認知件数の状況



図表 2 - 2 - (3) - 3 住居侵入の共犯形態別検挙件数（平成15年）

	総数	単独犯	共犯			
			2人組	3人組	4人組以上	
総数	7,695	6,151	1,544	721	348	475
成人事件	6,259	5,574	685	407	149	129
少年事件	1,296	577	719	254	168	297
成人・少年共犯	140		140	60	31	49

注：解決事件を除く。

来日外国人による住居侵入の検挙件数は、平成10年までは100件前後であったのが、平成11年以降200件前後で推移するようになった。平成15年の検挙件数は283件、検挙人員は134人で、前年に比べ、

検挙件数が78件（38.0%）、検挙人員が24人（21.8%）それぞれ増加している（図表2 - 2 - (3) - 4）。

図2 - 2 - (3) - 4 来日外国人の住居侵入の検挙状況の推移

